

イモ掘りイベントと自然観察会 報告

吉村 さつき・吉川 利文

10月20日、朝からぼつりぼつりと雨が降り、心配されましたが、開会式のころにはやみ、佐保台小学校の児童28人はじめ保護者、コーディネーター、未就学児ら合わせて66人の皆さまを無事お迎えすることができました。

開会式での鈴木会長のあいさつは、サツマイモの歴史に関するお話が中心。「なぜ『サツマ』という名がついてる?」「甘藷というのはどういう意味?」などについて勉強しました。続いて、イモ掘り作業についての詳しい説明と注意事項があって、さあ、いよいよイモ掘りです。

第2駐車場の前のイモ畑では、エコファームグループのメンバーが1人5株ずつの区画づくりをしてくれていたため、28人の児童はそれぞれ自分の区画でマイペースで掘っていきました。手伝うお父さん、お母さんたちも童心に帰り、移植ごてやスコップを振るって楽しそう。イモの品種は「紅はるか」。肌が真っ赤で、土から掘り出されると、鮮やかな赤色が畑を埋めました。また、行儀がよいのも特徴で、巨大なブドウのように一本の株に整然と連なって掘り出されるイモもありました。

掘り上げたイモは班ごとに集められ、コンテスト出品の品定め。コンテストは重さ、形の面白さ、ツルの



長さの3種目。重さでは1,500gのでっかい1班のイモが優勝。形の面白さでは、「車」「お尻」、「ヌンチャク」、「ミジンコ」などが競り合いました。参加者の拍手の多さと、エコファームグループから選ばれた小山審査委員長との判定で、4班のミジンコがグランプリです。ツルの長さ比べは、少しでも長くなるようにと知恵を絞ってツルを伸ばしていきます。伸ばし伸ばして245cmに達した4班のツルが1位に。それぞれの順位の班には金、銀、銅、4位の素敵なドングリのメダルが配られ

ました。自分たちのイモを上位に推そうと、会場は拍手と歓声で大いに盛り上がりました。

昼食では、イモ尽くしの料理が振る舞われました。サツマイモたっぷりの豚汁、イモのツルの煮物、イモとイモの葉の天ぷら…。「うちではあまり食べない子なのに、ここでは喜んで食事を楽しんだ」と言うお母さんもおられました。イモのツルの煮物やイモの葉の天ぷらは初めてという保護者も多く、とても喜んでいただけました。

午後からは自然観察会。全員ヘルメットをかぶり、勇ましく山入り。まずは2グループに分かれて“ロープ登山”で「遊びの森」へ向かいます。「よいしょ、よいしょ」とロープを手繰りながら、小さい子もがんばって急な山道を全員登りきることができました。一つのグループはブランコ、木登り、ロープを伝いながら丸木を伝い歩きする「バランス」と、自分に合った遊びを選んで楽しみました。木登りでは、はしごのない木にするするとよじ登り、これまでの高さ記録を更新する子もいました。



その間、別のグループは立ち木伐採。それぞれ革ケース入りののこぎりと剪定ばさみを腰に下げ、まるで、二丁拳銃の“チビっ子カウボーイ”。安全のため、里山グループの平田リーダーから綿密な注意事項を聞き、木の伐採に取りかかりました。のこぎりを持つのが初めての子も多く、伐採しようとした立ち木にのこぎりの歯を取られて悪戦苦闘、お父さんやお母さんに手伝ってもらって何度も挑戦し直す子もいました。剪定ばさみの鋭い切れ味に戸惑いながら、おぼつかない手で枝の筋定もしました。どの子も真剣そのものでした。

保護者の中には、「子供の力を見直した」と、頼もしげに見守っておられる方もいました。

メイン行事が終了し、焼き芋を食べて一服。アンケートに記入した後、シカの折り紙とこの日掘ったサツマイモをお土産に、皆さん家路に着きました。